

# 日本メキシコ学院が日本メキシコ学院であるための国際理解教育

— 私がいて、あなたがいる。児童が友好的に交流を深めていくための手立て —

前日本メキシコ学院日本コース 教諭

長崎県諫早市立西諫早小学校 教諭 井原 陽子

キーワード：在外教育施設、メキシコ、国際理解教育 現地校との交流

## はじめに

日本メキシコ学院は、日本人の子弟が在籍する「日本コース」とメキシコ人（日系人）が在籍する「メキシココース」の両コースより成り立つ。教育活動の最も魅力的な部分が両コースの交流であることは言うまでもない。国際交流において恵まれた環境を児童生徒のためにどう生かすかについては、これまで多くの教職員が実践を重ねてきたところでもあった。

学院の目的と建学の精神に則り、相互理解や友情を深める中で、同じ学院の仲間としての連帯感や互いを尊重し合う心情を育むことを目標にして取り組んできた実践を紹介したい。

## 1. 児童の実態と主題設定の理由

学級には半数近くスペイン語を話せる児童がおり、なかには体験入学や院内ホームステイに参加してメキシココースに友達がいる児童もいる。しかし、前年度の児童アンケート結果からは交流に対して個人差があることが伺える。児童に交流の話題を持ちかけると、喜ぶ児童がいる反面、相手の行動に対する批判が出てきた。

また、4月に行った道徳の授業では、学院の良いところを話し合った。すると、「メキシココースがあるところ」という意見が出た。同時に「カフェテリアがある」「幼稚園から高等学校まである」といった意見は出たが、「メキシコ人の友達ができる」といった内容の意見はなかった。

以上のことから、児童がメキシココースの児童に対して「メキシココース」とひとくくりにして捉えており、個と個の距離が離れているように感じた。さらに言葉が分からない児童にとっては、その不安から共感的な見方をすることは難しいように思える。

そこで、交流に対して積極的ではない児童には、特にメキシココースの児童と多く関わりを持たせる必要性があると感じた。一緒に楽しむ経験を積み、相手の気持ちを考えたり相手の良さを見つけたりすることで相手を尊重し合う関係作りができるようになる。そうすることで児童はメキシココースの児童との交流を楽しむことができる。

また、交流を楽しむだけでなく、自分の伝えたいことを伝えたり、相手の考えを聞いたりして仲を深めていけるか、といった試行錯誤の末に身につけた考え方やスキルが、ゆくゆくは国際社会の一員として他者を尊重し共生する力になる。そのため、児童が目的を持ち、関わり方を考えてから交流に向かう経験を重ねる必要がある。

交流についてだけでなく、個々の児童は日本での生活経験に個人差があり、日本の文化についての知識が乏しい児童もいる。日本コースの児童はメキシコで生活しながら日本人としての教育を受けているが、風土に関する物や文化については実際に触れたり体験したりすることができず知識に偏りがある。逆にメキシコでの生活のおかげで、メキシコの行事や遊びなどの文化に触れる機会が多く、その良さも知っている。国際社会に生きる日本人として、自国に誇りを持ち文化を大切にすることが他国を尊重しその文化を重んじることにつながることから、児童が日本文化を知ることやその良さを感じとることも必要である。

## 2. 実践のねらい

児童がメキシココースとの交流を重ね、友達といえる仲間を増やし、お互いの文化を知ったりその良さを見つけたりすることで両国の文化を大事にするようになることが、本学院における交流のめあてであると考えます。

そこで、学級の児童の実態から考えられる手だてを考え、めざす児童像に迫る仮説を立てた。

《児童の実態》
<ul style="list-style-type: none"><li>・交流についての意欲には個人差があり、スペイン語が話せる児童はとても喜んでいる。</li><li>・友達といえる特定の相手を思い浮かべることができない。</li><li>・交流についての目的意識を持たず、自主的に交流をするというより、させられている感が強い。</li><li>・日本のこと（伝統・文化・慣習など）についての知識に個人差がある。</li></ul>
《具体的な手だて》
<ul style="list-style-type: none"><li>・メキシココースの児童と関わる機会をできるだけ増やし、顔見知りになることから始める。</li><li>・交流では、相手の様子だけで判断せず、相手の状況を考えたり、良さを見つけるように努めたり、思いやる心を持って接するように指導する。</li><li>・交流前に個人のめあてを持ち、交流後にそれが達成できたかをふり返る。</li><li>・学級全体としても交流での関わり方をふり返り、相手の良さを見つけたり、優しく接することができたりした児童を賞賛する。</li><li>・交流で課題になったこと（意思伝達の方法や相手への言動など）は、全員で課題解決の方法を話し合い、次の交流でのめあてとする。</li><li>・交流する内容を教師側で設定するだけでなく、児童が自分達でしてみたいことを考え、準備し、交流ができるような場を設定する。</li><li>・日本コースの児童として、日本の文化等についての知識を持ち、他国の人に伝えることができるようにさまざまな体験をさせたり調べたりさせる。</li></ul>
《めざす児童像》
<ul style="list-style-type: none"><li>・メキシココースとの交流を楽しみ、目的を持って取り組むことができる児童</li><li>・メキシココースの児童に自分の考えや思いを伝えることができる児童</li><li>・自国の文化を大切に、他国の文化も同様に尊重することができる児童</li></ul>

## 3. 実践方法

### (1) 交流の機会を増やす

まずは顔を合わせる回数、つまりメキシココースの児童と関わる機会をできるだけ多く設定した。両コースが一緒にいることが特別という感じではなく自然に感じられるような状況を作り、そこで相手への配慮ある行動を取ったり、オープンマインドで接したりすることができるようにしたいと考えた。そうすることで児童はメキシココースの児童との交流を楽しみ、友達の名前や顔を覚え、仲間としての連帯感を持ったりメキシココースの児童に対して友好的に接したりするようになるからである。

### (2) 毎回ふり返ることで賞賛し、次のめあてをもたせる

交流後は学級での話し合いや作文でふり返り、肯定的な見方と行動の成長を評価しつつみんなで課題を設定した。

交流をする度に課題になってくるのは相手の言動に対する不満である。言葉も文化も違うメキシココースの児童がしていることについて、不思議に思ったり不快に思ったりすることがあるのも当たり前である。しかし、それはメキシココースの児童に対して自分達も同じように思われるであろうこと、自分の「普通」が相手の「特別」になることもあることなどを知らせ、相手の状況を考え、思いやる心を持って関わるように指導することにより、主観的な考えで相手を批判することがなくなってくる。また、マイナスの点ばかりを見るのではなく、相手の良さを見つけるよう指導することで、プラスの思考ができるようになる。こうした指導を続けることで、他者理解を深め、友好的に接することができると思える。

それから、もう一つ課題に取り上げられるのは児童の主体性である。各自の目標に挙げられることの多い項目は、楽しく交流すること、友達を増やすこと、相手に自分の考えや思いを伝えるようになること、の3つである。自分の思いを伝える力をつけるためには発表会が適している。そこで、メキシココースの児童へ日本の文化を紹介する

といった活動を仕組むことで日本文化の知識を深め、自らメキシココースの児童へ関わろうとするコミュニケーション能力を育成することができる考えた。また、日本文化の知識を土台としてメキシコ文化との比較、共通点や両文化の良さを発見していくことができるであろう。

日本文化を紹介するためには、深く理解する必要性が生まれてくる。児童の実態として多少の差はあるが、発表準備を進めることで文化の由来やその良さを調べる力が育成される。しかもメキシココースの児童に伝えるためにはプレゼンテーションにおいて言語以外で伝わるようにする工夫が必要になるため、様々な手段を講じなければならない。こういった紹介の準備をすることで、児童は情報収集能力と表現能力を培うことができる。



「日本の文化を紹介しよう」授業風景

メキシココースの児童に発表する場面では、言葉があまりわからなくても楽しめるように工夫すること、困っていたら手助けすること、友達になれるように話しかけてみることなど、この授業を通して相手の立場と自分にできることを考えながら行動に移すことができる。

### (3) 道徳との関連

交流の時間だけでなく、道徳の時間でもメキシココースとの交流を話題に取り上げた。学習指導要領における道徳教育の価値項目 2-(1)「礼儀」や 2-(2)「思いやり」などの「主として他の人との関わりに関すること」や、4-(4)「愛校心」4-(5)「郷土愛」4-(6)「愛国心」における「主として集団や社会との関わりに関すること」においては、交流時の考え方や意識に影響をあたえたと考えられる。資料だけでなく、実際に交流で起こった事などを話題に取り上げるように留意し、交流をより良く、より楽しくしていこうという心情を高めるようにした。

## 4. 実践項目

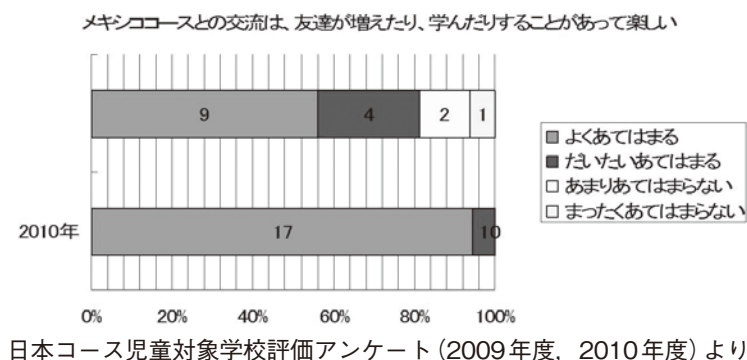
年間を通して、以下の交流を行った。

実施日	交流名	内容・意義・児童の様子
6月14日	音読劇を聞いてもらおう	顔合わせと課題発見のための「音読交流」。言葉で伝えることの難しさと聞いてくれるメキシココース児童への感謝の気持ちを持つ。
6月11日 29日	サッカー観戦	観戦のしかたについてお互いの善し悪しを感じる。日本を応援してくれていた様子を肯定的に捉える。
6月23日	アミーゴ交流 (盆踊り交流)	名前を覚えることができた。名札の交換で相手の名前を忘れずにいられた。個人と個人のつながりが始まる。
9月14日	お祭りの夜店を紹介しよう (独立記念日交流)	話しかけること、説明のスペイン語を準備することなどの課題克服と、喜んでくれる良いところ見つけができた課題解決の第一歩となる。
11月7日	運動会	観戦態度が良くアンケートにもほぼ全員が「話しかけることができた」「話しかけられた」と答える。新しく名前を覚え、文化について話をしていた。「メキシココースの人が一緒にできて楽しい運動会だった」「協力できた」等の感想が多い。
11月12日	天皇誕生日レセプション	天皇誕生日レセプションに向けて(新年会でも) お互いに挨拶し、励まし合い、終了後賞賛しあう姿が見られた。
12月8日	日本の文化を紹介しよう。	表現力を育て、交流を深めるために紹介した。
12月15日	ふるしきをつくらう。	自然に話しかけるようになり、譲り合いなどお互いに仲良く交流をしている。
12月16日	クリスマスプレゼント交換	「クリスマス交流」でのプレゼント交換(カレンダー作製)、自主学習でのピニャータの調べ学習。
3月9日	ドッジボール交流	「ドッジボール交流&質問タイム」では質問が途切れず、幼稚園以来話をしていなかった子と久々に話し交流を深めた児童がいた。

その他：子どもの日交流、死者の日交流、鼓笛隊、文化祭

## 5. 実践の結果

学級の児童に対して2009年に行った学校アンケートのうち、「メキシココースとの交流は、友達が増えたり、学んだりすることがあって楽しい」の項目は、2010年度（調査は2011年1月）に同じアンケートに答えた結果と大きく変わった。学級の全員が「楽しい」にあてはま



るとい結果はこの一年間、児童がいろんな葛藤を乗り越え、自己理解と他者理解を深めた結果だと考える。

交流を終えて話し合いをするごとに、児童の感想は「楽しかった」の内容に具体例や気持ちの深みが出てきた。そして、次なる課題も「名前を覚える」に始まり「話をする」「質問をする」といった高まりが見られた。運動場などで出会うと挨拶したり手を振ったりし合う光景が見られた時、成長を感じた。

「私」から見た相手「あなた」は、私の考え方や文化、立場などを根拠にして決まってくる。このとき、思いやりの心をもって「あなた」のことは見ると、きっと私の関わり方や、その後の気持ちが変わってくる。「私」次第で「あなた」が違って見える－交流をしている児童にも、それが体感できたのではないだろうか。

最後に、本研究のまとめとして成果と考えられるもの、今後の課題となるものを以下に挙げることにする。

### 《成果》

- ・「遠くの親戚より近くの他人。」顔を合わせる頻度を高くすることで親近感が湧く。授業だけでなく気軽に活動したり遊んだりする機会を増やす。
- ・「分からないことは不安の表れ。」相手の状況を考え、肯定的に捉えることで日本コースの態度もよくなり、相手もそれに応えてくれるので良い関係を作っていく。
- ・「誰にでも良いところがある、そこを見ていくと仲良くなれる。」これは、学級の児童の言葉。交流だけでなく、人間関係を作る上でも大切。
- ・「話せないなら話せないなりに準備を。」スペイン語がわかる児童に尋ねて「会話メモ」を作る児童がいた。
- ・「メキシココース」ではなく「メキシココースの〇〇さん」と仲良くなることができた。集団から個の交わりになった。
- ・「担任が指標。」児童の交流と同じく、担任も運動会に向けての練習をきっかけにメキシココース中学年の先生方の名前を覚え、一緒に練習の指導で協力し合っただけでなく、英語や簡単なスペイン語で何気ない話をするのができた。以後校内で挨拶を交わすようになる。こういった話を児童にすることも大切だと感じた。
- ・翌年の学級目標に「メキシココースの人と仲良くする」という項目が入った。児童に意識づけられていることがわかる。

### 《課題》

- ・今回の交流は、毎年、どの学年にでもできることではない。回数だけでなく、内容と時期、回数を共に高めていく交流の在り方を考える必要がある。
- ・両コースの学年が変わる時期もあるが、前年度の内容を引き継ぐことで、翌年度もうまく交流を続けていけるので、しっかり伝えておきたい。

### おわりに

交流授業をするうえで、一緒に授業をされるメキシココースの先生方や日本語教育部の先生方の熱心な指導ぶりも大変勉強になった。メキシココースとの交流では、メキシココース小学部の先生方の温かさを感じるが多かった。年間を通して交流の調整をしてくださっている国際交流室の職員および研究のまとめにスペイン語訳に携わった方にも、心より謝意を申し上げたい。3年間の派遣生活で多くの貴重な出会いがあり、人生の宝となった。